

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：宮城県名取市

（作成主体： ）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

麦・大豆生産の現状と課題

- ・近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。
- ・麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。
- ・実需者からは、安定した品質と供給が求められているが、近年は気象変動等の影響もあり出荷量の減少と上位等級率が下がっている現状である。今後は、天候などの影響を最小限に抑えることが課題となる。
- ・現在、名取市においては、名取市水田収益力強化ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

課題解決に向けた取組方針

- ・当産地の圃場はブロックローテーション等により周辺地区との話し合いを含め、水稻と大豆・麦の圃場を選定して作付している。
- ・大豆・麦の連作をできる限り避けることや高窒素肥料を側条施肥することにより効率的な作業体系を確立して安定した収量を目指している。
- ・計画的な施肥・播種、排水・雑草対策などを実施し適期収穫に努めているが、近年は気象変動が激しく特に豪雨等は作付面積も多いことから管理作業や刈取作業に影響を与える場合があるため、レーザーレベラーでほ場の均平化を図る。
- ・大規模面積において効率的な生産と品質向上を図る為には、管理作業の更なる機械化や効率化と適期収穫が不可欠であり、機械体系の確立と高収量・高品質な大豆生産に取り組むものである。
- ・麦については、直近の民間流通連絡協議会で実需者から提示された購入希望数量が産地の販売予定数量を下回っている「ホワイトファイバー」、「シュンライ」の増産を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

宮城県名取市産地 連携方針:実需者の意見を反映した品種の作付と高品質の原料供給

※研修会や意見交換会などを通して情報交換

大麦実需者

麦茶業者

取扱量の現状(R4年産) : 506t
目標値(R7年産) : 570t

大豆卸業者

豆腐製造業者
納豆製造業者
煮豆製造業者
みそ製造業者

取扱量の現状(R4年産) : 183t
目標値(R8年産) : 250t

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

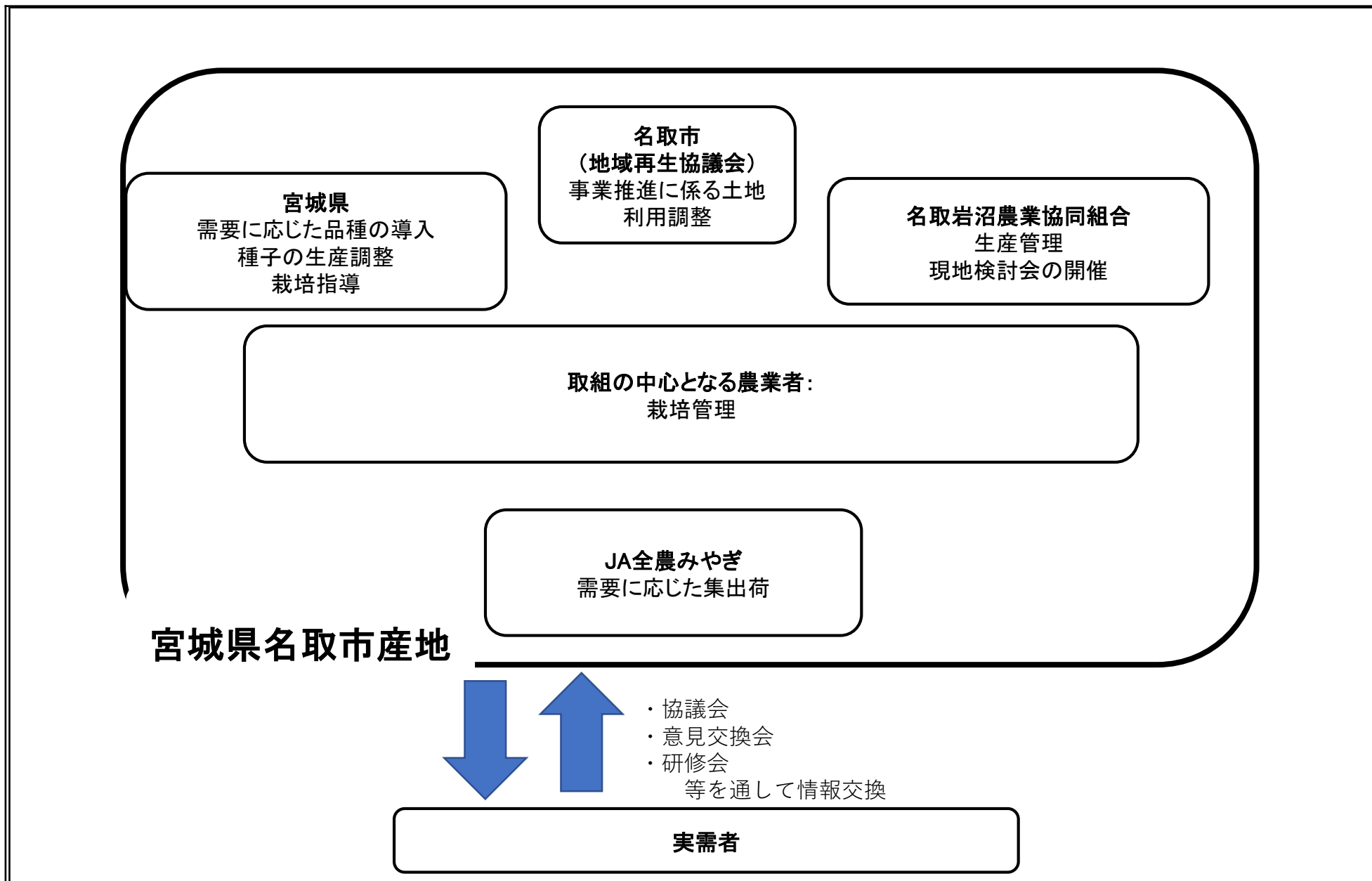
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。